

月刊 きょうと教育通信

vol. 9 平成15年7月号 発行：京都市教育委員会企画課（222-3768）

京都市教育委員会のHPは <http://www.city.kyoto.jp/kyoiku/> でご覧いただけます。広報資料は毎日更新しています。

下京区5中学校が統合へ 地元から要望書が提出

6月3日、下京区の郁文・成徳・尚徳・皆山・梅逕の5中学校を1校に統合することを求める要望書が、地元19学区の自治連合会会長やPTA会長等で構成される下京区5中学校統合準備委員会（委員長：篠原實氏）から、門川大作教育長に提出されました。

要望書を篠原委員長から受け取った門川教育長は、「子どもたちのより良い未来を希求される熱い思いと行動力に深く敬意を表します。ご要望の実現に向け、榑本頼兼市長と市議会の理解・支援のもと、迅速・円滑に準備を進め、統合して良かったと思っただけのように全力を尽くしたい。」と力強く話されました。

5校の生徒数（15年度）は、94人から184人の計602人。いずれも昭和30年代には各校とも1,000人を超えていましたが、大幅に生徒数が減少していました。

学校統合は、これまでから地元主導による「京都方式」により進められており、この統合が実現すれば、下京区の中学校は6校が2校となり、19の元学区・約25,000世帯が集まる中学校区となります。また、5校もの中学



篠原委員長から要望書を受け取る門川大作教育長

校統合は、全国の大都市で史上初めてとなります。

< 要望書の主な内容 >

5校を統合し、早期（19年4月を目途）に新中学校を建設する

新校舎を現「尚徳中」に建設する

部活動を中心に使用する新運動場を現「成徳中」と現「梅逕中」に整備する

統合後の中学校には新たな校名を付ける

ご意見・お問合せ＝学校統合推進室（371-2009）

銅駝美術工芸高校学科改編



全国で公立唯一の美術専門高校として創立123年を迎える京都市立銅駝美術工芸高校では、21世紀の美術界で活躍する人材の育成を目指して、平成16年4月からこれまでの8学科を「美術工芸科」1科に統合、併せて教育内容の充実を図ることとしました。

1年生では美術の各領域を幅広く学習し、2年生から各専攻コースに分かれて表現能力の伸長を図り、3年生で進路目標別にさらにきめ細かく学びます。国立美術大学等への進路実現のため、普通教科と美術の基礎科目は3年間充実して学ぶことができます。

このほか、2期制の導入、7時限授業の拡充、自由選択実習の設置、多彩な外部講師の活用など、多様な学びの場を用意し、世界にはばたく人材の育成を目指します。

ご意見・お問合せ＝学校指導課（222-3811）

< 6月の主なできごと >

- 2日 立命館大学と包括的な連携協力に関する協定を締結。
- 2日 西陣中央小学校グラウンドで芝生植栽式
- 12日 洛陽工業高校が、文部科学省の「目指せスペシャリスト」指定校に決定される（全国2,000の専門高校の中から9校が指定）
- 21日 学校コミュニティプラザ月輪中ゾーン開所式
- 27日 京都アスニーの看板講座「ゴールデンエイジアカデミー」の受講者が50万人突破

< 7月の主なできごと >

- 9日 第7回子ども読書活動進行市民会議
- 10日 長崎市における中学生男子補導を受け、児童・生徒の育成に関わる5団体が緊急アピール発表
- 16日 高倉小が市立学校で最も早い夏休みの開始に伴い全校集会
- 18日 22歳の政令指定都市最年少委員をはじめ、初の公募2人を含む第26期社会教育委員を委嘱
- 19日 地域の方々がボランティアとして運営に携わる新しいタイプの図書館「コミュニティプラザ深草図書館」の開館式典・記念講演会
- 23日 英語教育推進プロジェクト・チーム第1回会議
- 24日～11月4日 学校歴史博物館企画展「むかしの教科書大集合 Part 2」

中高一貫教育への高い関心 西京高附属中説明会に 5200 人が参加

7月5日、京都市勤業館みやこめっせで、16年4月に開校する西京高等学校附属中学校の説明会を開催しました。これは5月の説明会（オープンキャンパス）に引き続いて行ったもので、当日は、第2会場を用意するなど、予想をはるかに上回る約5,200人の小学生や保護者等が参加しました。

説明会では、カリキュラムや課外活動について紹介。総合的な学習の時間を活用し、創造性・判断力等を体験的に身に付ける「エンタープライジングA」や数学・英語の能力を伸ばす発展的な学習を展開する「エンタープライジングB」、また、毎朝10分間、リスニングを中心に実用的な英語に触れる「モーニング・イングリッシュ・シャワー」や自らが興味のあることについて放課後の理科室で実験できる「プラネットサイエンス」等、他校にみられない独自の取組を発表しました。

また、高校生の司会・集計により、小学生が附属中学のマスコットキャラクターを投票。子どもたちの歓声があふれる中、「アルファ」（写真右中



説明会での様子



候補となったマスコットキャラクター

央）に決定しました。

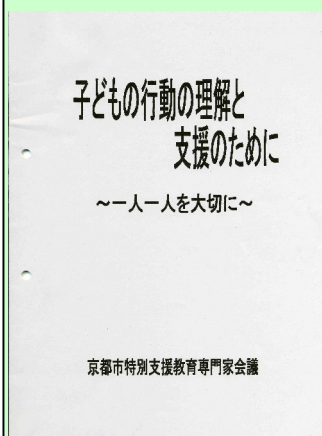
さらに、入学者決定方法について、小学校からの報告書や面接、思考力・判断力・表現力・独創性を評価する「作文・製作」、及び抽選を用いて総合的に決定することを説明しました。

参加者からは「わかりやすい説明で共感できる」「ぜひ入学したい」などの感想をいただき、関心と期待の高さがうかがえる熱気あふれる説明会となりました。

今後、募集要項を作成し、11月に保護者対象要項説明会を開催する予定です。

ご意見・お問合せ＝学校指導課中高一貫・新設中学校開設準備室（813-2626）

学習障害等への対応を解説 教員用指導ヒント集を発行

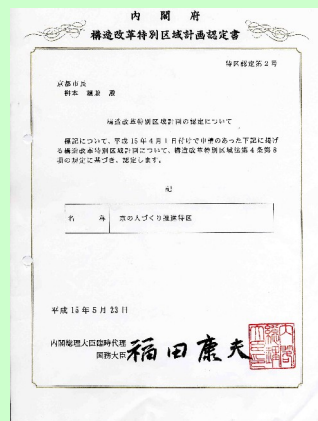


このたび、普通学級に在籍する学習障害（LD）や注意欠陥・多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより特別な教育的支援が必要な児童・生徒への指導の充実に向け、教員用指導資料「子どもの行動の理解と支援のために～一人一人を大切に～」が発行されました。

この冊子は、14年6月に設置した「特別支援教育専門家会議」がこれまでの検討内容をもとに作成。LD等の定義や判断基準について紹介するとともに、「興味のある教科には熱心に参加するが、そうでない教科では退屈そうに見える」など、学校でよく見られる事例を22項目想定し、指導時のヒントとなる考え方や対応等をQ&A方式でわかりやすく解説しています。

ご意見・お問合せ＝養護育成課（352-2285）

構造改革特区に認定 全国初の少人数学級を導入



5月23日、地域の特性に応じて規制を撤廃する構造改革特区として、京都市が計画した「京の人づくり推進特区」が認定されました。この計画は、市町村独自に常勤教員を採用することが規制されているもとで、京都

市独自の財源措置により常勤講師を任用。さらに、1クラスの定員が40人のもとで、独自に35人学級を小学校1学年（16年は2学年に拡大）に導入するものです。特区認定により少人数学級を導入する事例は、全国で京都市が初めてとなります。

今回の特区認定を受けて、学習指導面はもとより、基本的な生活習慣や社会の基本的なマナー・ルール等の生活指導面についても、さらにきめ細かな指導を行い、子どもたち一人一人を徹底的に大切にする教育を展開します。

ご意見・お問合せ＝企画課（222-3768）